



## インフルエンザワクチンをご家族みんなで受けましょう

○インフルエンザとは・・・冬に流行（九州は年末年始の里帰りのための集団移動の後くらい）して、急に寒気がして、高熱がでて、のどが痛くなり、からだの節々が痛くなる症状を示す疾患のこと。一方、風邪（感冒、コモンコールド）というのは、“くしゃみ鼻水、せきが出始めて、時に高熱になることもあります、ふつうは微熱で、症状がだらだらと続く”、というイメージですが、インフルエンザは症状や経過が明らかに異なり、いきなりの高熱、痛みで、経過は5-7日で、スカッと治る、短期決戦型の疾患です。主にインフルエンザウイルスによる感染症ですが、似たようなウイルスなどによる感染症でも、同様の症状があれば、インフルエンザ、と診断します（たとえ迅速診断キットが陰性でも）。

○インフルエンザワクチンの予防効果・・・インフルエンザはインフルエンザウイルスA型とB型が主な原因ウイルスです。よって、それに対する免疫をワクチンであらかじめつけておくと、感染後のインフルエンザ発症や重症化（痙攣、脳症、肺炎、心筋炎など）の予防が期待されます。発症予防効果は、一般的に**60%から70%**といわれております。これは、インフルエンザワクチンを一人も打ってない40人クラスの半分の20人がインフルエンザにかかったとします。かたやインフルエンザワクチンをみんな接種した40人クラスでは、打ってない場合は20人かかるところを60-70%減らすので、実際にインフルエンザにかかる人はその30-40%の6人から8人しか発症しないという意味です。打ってなければかかったはずの人20人のうち、60%から70%の12人から14人はワクチンのおかげでかからないということです。

○インフルエンザワクチンの本当の目的・・・発症予防効果よりインパクトが高いのは、重症化予防です。特にけいれんやインフルエンザ脳症の予防効果です。大分子ども病院のような救急病院の冬は、熱性けいれん搬送児が一日3-5人に増えて、ほとんどがインフルエンザ、しかもほとんどワクチンをしていない人ばかりでした（本当の話です）。きちんと統計を取ったことはないですが、印象としてはワクチンをしていたらインフルエンザによるけいれんや脳症発症はかなり減らせるはずと実感しています。

○インフルエンザにかかると重症化しやすい方とは・・・●**気管支喘息**、**ネフローゼ**や**膠原病**、**糖尿病**など基礎疾患をもっている、●**けいれん**を起こしたことがある人、**けいれん**を起こしやすい生後6か月以上から小学校低学年、●**妊婦**の方・・・これらの方々とそのご家族は特にワクチン接種を推奨しています。みんなで必ずワクチンを受けましょう。他に、●**医療関係者**。ほとんどのケースで、小学生が学校から持ち込んで家族に広めてしまうことが多いので、●**小学生**は必ず受けましょう。流行シーズンに●**受験**や●**修学旅行**のある中学高校生も打ってないと後悔先にたたず（受験生は2回接種希望者もいます）。また、打ちたくても打てない●**6か月未満の乳児**や重症な**鶏卵**やワクチンに対する●**アレルギー**の方がいるご家族も本人がかからないよう、周囲のみんながうってあげましょう

かみぞのキッズクリニック

院長 神蘭 慎太郎

## インフルエンザワクチン接種希望の聞き取り調査

インフルエンザワクチンのおおよその必要数を知るために、ご協力お願いいたします。まだ決めてらっしゃらない方もいらっしゃると思いますが、わかる範囲でいいのでお教えてください。発注するときの参考にいたします。

●今シーズン、ご家族はインフルエンザワクチン接種希望ありますか？ (ハイ ワカナライ イイエ)

以後は、ハイの人におききします

●当院で受ける予定でしょうか？ (ハイ ワカナライ イイエ)

以後は、ハイの人におききします

●ご家族何人受けられる予定でしょうか？もちろん当院は成人の方を含め、生後6か月以上ならばどなたでも受けられます。

( ) 人の予定です

●可能ならばお子様のお名前を ( )

ご協力、ありがとうございました。

